

松本市議会へのお願い

8月15日、上條 温 市議会議長に請願書を提出した。これを受け8月21日「病院建設特別委員会」の村上委員長と吉村副委員長が来訪した。

小職は人口減少と医療を取り巻く環境が著しく悪化しており、病院建設は慎重が上に慎重でなければならない。強引に巨額な病院を建てれば、大赤字で維持できなくなり破綻することを説明した。委員長は意見を持って帰り議員と相談すると述べた。

市議会への正式な請願である。選挙によって選ばれた市議会議員は、市政と市民のことを考えて行動するのが役割である。「市民の会」は出来る限りの情報を収集し、医療者の立場から関連資料と数字を示して「緊急提言」を松本市、市議会、医療関係者、国・県・2市5村、関係団体に2017年から今日まで26回発出し、市立病院の暴走に警鐘を鳴らしてきた。

市長の考えに、理性的に異を唱える団体に発言の機会を与えないのであれば、由々しき事態であって常識ではあり得ない。有識者や医療関係者を外した所で医療に関する重要な決定が決められ、それが正当化される。これが民主主義といわれたら、多くの市民は納得しないだろう。市議会は一度決めたことは元に戻せないという。では、間違った結論に気づいても沈黙していれば良いのですか？ 2018年松本市は、杜撰な計画に気づき凍結しているではないか。「過ぎて改めざる。これを過ちという」。孔子は「間違う事が悪いのではない。それを反省して改めない事が間違いだ。」と説いています。

英語の慣用表現で「部屋の中の象 (elephant in the room)」という言葉があります。「明らかな問題なので多くの人気づいているが、誰も口には出したがらないこと」を指す言葉です。松本市、市議会、そして、マスコミは、市立病院建設が「部屋の中の象」と化している事実を認めようとしません。

負け戦の現実を無視して、ただ戦争を継続することだけが目的と化した軍部にそっくりです。今回の自民党総裁選でも、社会保障費が140兆円を超える2025年問題という、部屋の中の象を誰も語らないし、聞くマスコミもいません。良いリーダーは「部屋の中の象」から目を逸らさず、はじめに対処できる人間です。

市議会議員にあっては、誰のために病院を作るのか、地域医療を健全に安全に継続させるためにはどうすべきか、という根本を熟慮していただきたい。今、病院は状況判断が出来ず、危機意識がなければ破綻する運命にあります。波田地区住民と病院職員のために安全な場所に「身の丈にあった病院」を作ることを考えていただきたい。

【市民の会のホームページへのアクセス】

<https://mth-ca.org/>

